



かぜ 東陽の旋風 ～自律協働貢献～

令和6年12月20日（金）No 34 発行
文責：松本 卓也

“共育”を目指して ～2学期授業参観、学年・学級懇談会～

12日（木）、「2学期授業参観、学年・学級懇談会」を開催しました。多くの保護者の皆様のご来校、ありがとうございました。授業参観では、「熊本の心」を活用し、1年生は「俳優 笠智衆」、2年生は「万田坑と共に」、3年生は「さよならの写真」の授業を公開しました。当日は学校運営協議会員の9名の皆さまにもご参観いただき、



- ・どの学年も落ち着いた雰囲気でした。八代等、郷土の身近な資料から丁寧に取り組みられていました。（1年）
- ・動画をしっかりと見ていて態度もよかった。発表でも、心に残った姿を一人一人考えて発表していた。（1年）
- ・実際に働かされている保護者の方々が参加して意見を述べられていたので、新鮮で非常に有意義だと思いました。（2年）
- ・職場体験をされたからこそ、色々な思いが伝わっていると思います。将来、自分のためになると思います。（2年）
- ・子どもたちのようすが生き生きとしている。先生の授業の進め方が上手だなあと感じました。（3年）
- ・後ろ姿の写真だけで、色々な心情を深く掘り下げているのに感心しました。（3年）



等、嬉しい感想をいただきました。また、「学年が上がるにつれて、多様な意見がでていました。3年生、すごいですね。」「主人公の心情をもう少し深く考えさせると良かったのではないか。（3年生）」等の貴重なご助言や、「伝統文化学習での集合写真、笑顔溢れるいい写真ですね。いつも見ない表情が見られました。」「文化祭、幕間のインタビュー等、飽きさせない工夫があり、流れが非常にいいと思いました。」「等の授業以外の活動への感想もいただきました。校内でご意見・ご感想を共有し、さらに向上を目指したいと思います。学校運営協議会員の皆さま、ありがとうございました。学年・学級懇談会では、すこしくトークで親睦を深めた後、2学期の様子や学校行事の説明に加え、冬休みの過ごし方、ICT機器との上手な付き合い方についてご家庭での見守りをお願いしました。ご家庭と学校が同じ方向を向き、「共に子どもを育てていく（共育）」視点を大事にして、3学期も教育活動を進めてまいります。今後とも、保護者の皆さまの温かいご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



核兵器のない社会を願って・・・

10日（火）、ノーベル平和賞の授賞式がノルウェーのオスロ市庁舎で行われました。今年のノーベル平和賞を受賞したのは、日本原水爆被害者団体協議会（被団協）。被爆者の相談・援護活動や原爆被害への国家補償を求める一方、世界に向けて核兵器廃絶や核実験禁止を訴え続けてきました。高校生平和大使として参加した大原さんは、「なぜ被爆者の方がいまノーベル平和賞の受賞に至ったのか、また、なぜ私たちが今こうやって活動しているのか、そういった意味を改めて認識することができて、核も争いもない世界を今を生きるすべての人とともに創っていくべきなんだと感じました。」と述べました。当たり前の日常や誰もが幸せに生きることが出来る世の中を創っていくことは、今を生きる私たちの「使命」だと考えます。戦争という悲劇を繰り返さないために、平和な社会をつくるために、私たちみんなが一步踏み出すことが大切です。東陽中の子どもたちが「平和」を創る主体者として育ててほしいと願っています。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）